

2) 判定区分Ⅲ、Ⅳの橋梁の修繕等措置の実施状況(四国)

- 1 巡目点検で早期に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅲ）又は緊急に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅳ）と診断された橋梁で、2022年9月末までに修繕等の措置に着手した割合は、国土交通省：97%、高速道路会社：100%、地方公共団体：73%（県：99%、市町村：64%）。

(四国4県計)

管理者	措置が必要な施設数 (A)	措置に着手済の施設数 (B)	うち完了 (C)	未着手施設数
国土交通省	184	178 (97%)	143 (78%)	6 (3%)
高速道路会社	16	16 (100%)	16 (100%)	0 (0%)
	西日本高速	15 (100%)	15 (100%)	0 (0%)
	本四高速	1 (100%)	1 (100%)	0 (0%)
地方公共団体計	5,464	4,012 (73%)	2,619 (48%)	1,452 (27%)
	県	1,415 (99%)	946 (67%)	9 (1%)
	市町村	4,049 (64%)	1,673 (41%)	1,443 (36%)
合計	5,664	4,206 (74%)	2,778 (49%)	1,458 (26%)

「道路メンテナンス会議」調べ (2022.9末時点)

2) 判定区分Ⅲ、Ⅳの橋梁の修繕等措置の実施状況(愛媛県)

- 1 巡目点検で早期に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅲ）又は緊急に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅳ）と診断された橋梁で、2022年9月末までに修繕等の措置に着手した割合は、国土交通省：100%、高速道路会社：100%、地方公共団体：70%（県：98%、市町村：59%）。

(愛媛県)

管理者		措置が必要な施設数 (A)	措置に着手済の施設数 (B)	うち完了 (C)	未着手施設数
国土交通省		48	48 (100%)	40 (83%)	0 (0%)
高速道路会社		9	9 (100%)	9 (100%)	0 (0%)
	西日本高速	9	9 (100%)	9 (100%)	0 (0%)
	本四高速	0	0	0	0
地方公共団体計		1,693	1,180 (70%)	904 (53%)	513 (30%)
	県	457	449 (98%)	372 (81%)	8 (2%)
	市町村	1,236	731 (59%)	532 (43%)	505 (41%)
合計		1,750	1,237 (71%)	953 (54%)	513 (29%)

「道路メンテナンス会議」調べ (2022.9末時点)

2) 判定区分Ⅲ、Ⅳのトンネルの修繕等措置の実施状況(四国)

- 1 巡目点検で早期に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅲ）又は緊急に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅳ）と診断されたトンネルで、2022年9月末までに修繕等の措置に着手した割合は、国土交通省：100%、高速道路会社：100%、地方公共団体：94%（県：100%、市町村：76%）。

(四国4県計)

管理者		措置が必要な施設数 (A)	措置に着手済の施設数 (B)	うち完了 (C)	未着手施設数
国土交通省		40	40 (100%)	34 (85%)	0 (0%)
高速道路会社		46	46 (100%)	46 (100%)	0 (0%)
	西日本高速	46	46 (100%)	46 (100%)	0 (0%)
	本四高速	0	0	0	0
地方公共団体計		302	283 (94%)	188 (62%)	19 (6%)
	県	224	224 (100%)	165 (74%)	0 (0%)
	市町村	78	59 (76%)	23 (29%)	19 (24%)
合計		388	369 (95%)	268 (69%)	19 (5%)

「道路メンテナンス会議」調べ (2022.9末時点)

2)判定区分Ⅲ、Ⅳのトンネルの修繕等措置の実施状況(愛媛県)

- 1 巡目点検で早期に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅲ）又は緊急に措置を講ずべき状態（判定区分Ⅳ）と診断されたトンネルで、2022年9月末までに修繕等の措置に着手した割合は、国土交通省：100%、高速道路会社：100%、地方公共団体：92%（県：100%、市町村：67%）。

(愛媛県)

管理者	措置が必要な 施設数 (A)	措置に着手済 の施設数 (B)	うち完了 (C)	未着手 施設数
国土交通省	10	10 (100%)	9 (90%)	0 (0%)
高速道路会社	17	17 (100%)	17 (100%)	0 (0%)
	西日本高 速	17 (100%)	17 (100%)	0 (0%)
	本四高速	0	0	0
地方公共団体計	132	121 (92%)	83 (63%)	11 (8%)
	県	99 (100%)	76 (77%)	0 (0%)
	市町村	33 (67%)	7 (21%)	11 (33%)
合計	159	148 (93%)	109 (69%)	11 (7%)

「道路メンテナンス会議」調べ (2022.9末時点)

【概要】 橋長17.55m 建設年:1966年 橋種:単純鋼非合成H桁橋

【所見】

- 支承本体は沓座モルタルの欠損により下沓と橋座面に隙間が生じている。
- 沓座モルタルの変形・欠損 - C2判定。

【対策】

- 支承及び沓座の取替補修。(R3.7月補修完了)

平成31年度 Ⅲ判定

位置図



※この地図は国土地理院の地理院地図を使用して作成したものである。

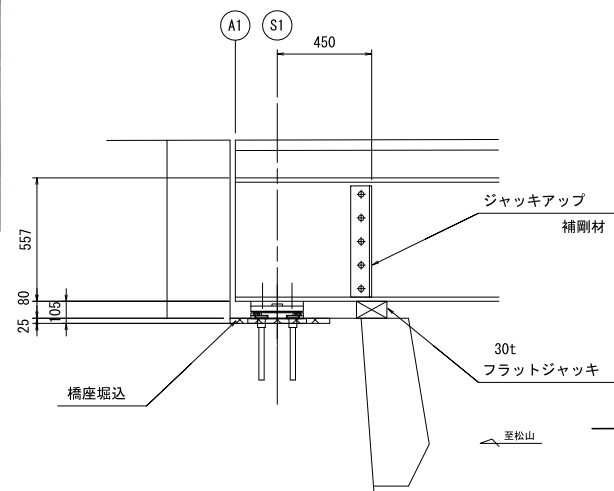
対策前
(沓座モルタルの変形)



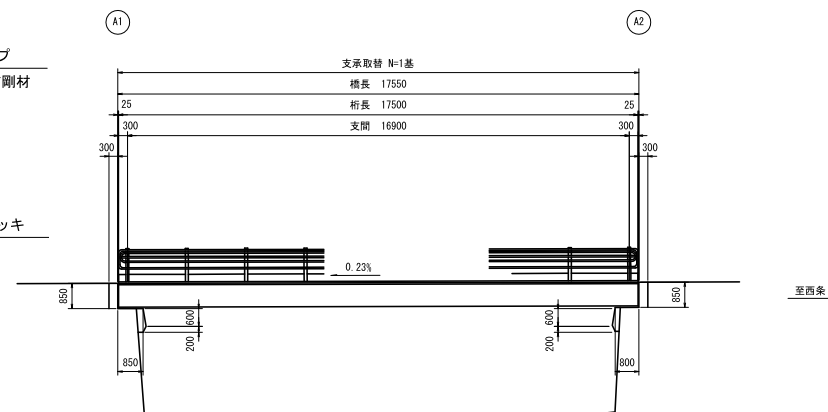
対策後
(支承及び沓座の取替補修)



詳細図



側面図



にいやこせんきょう おおずし にいや
国道56号 新谷跨線橋 (愛媛県大洲市新谷)

【概要】 橋長18.7m 建設年:1967年 橋種:単純鋼H桁橋
日交通量:15,433台未満 大型車混入率13.3%

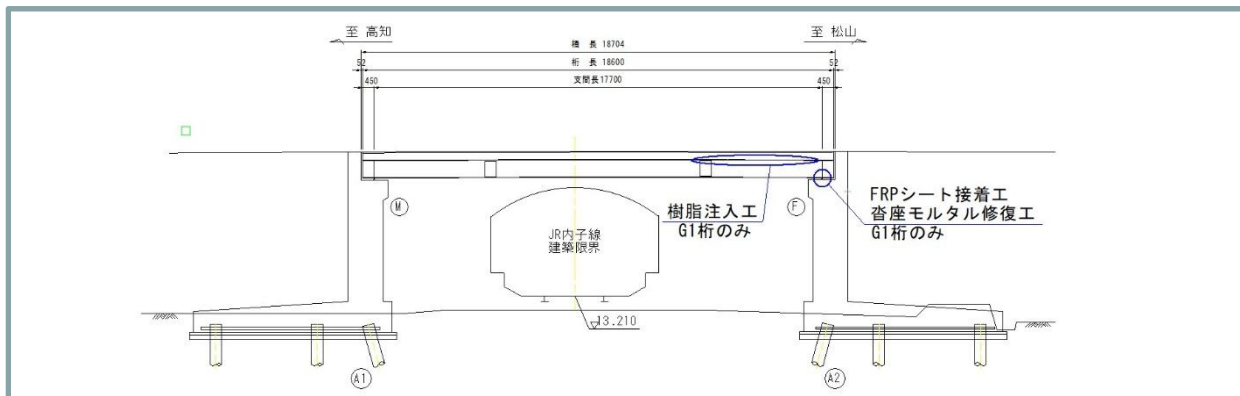
【所見】

○剛材の減肉、補床版と主桁のうき、支承部のコンクリートの劣化及び錆等がみられる。

【対策】

○当て板補修、樹脂注入、沓座補修(R4年3月)

平成28年度 Ⅲ判定



対策前



施工状況



施工状況



対策後



【概要】 道路管理者:西日本高速道路株式会社
 橋長:133m 建設年:1998年 橋種:4径間連続非合成鋼鈑桁橋
 日交通量:10,938台 大型車混入率:13.9% (令和3年)

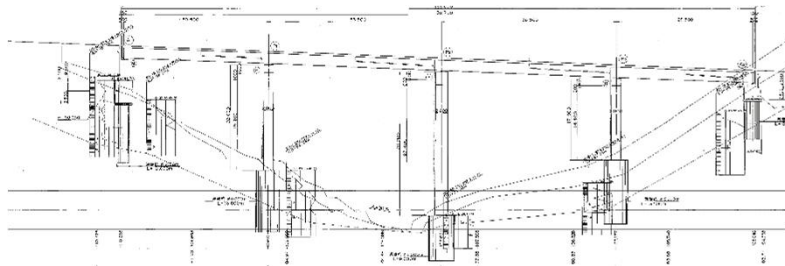
【所見】
 ○床版目地からの漏水による腐食進行が確認され、主桁及び鋼桁に欠損・浮き及びひび割れが見られる。

【対策】
 ○断面修復工, ひび割れ注入工, 当て板補強工
 (R4.2月対策完了) ⇨ 工期末はR4.3

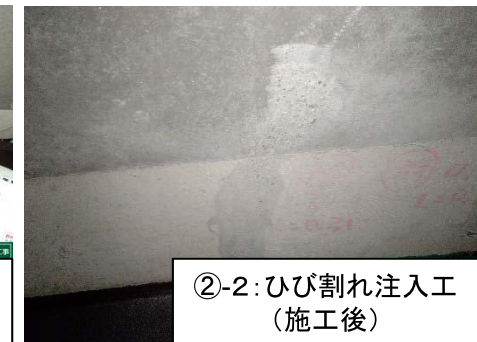
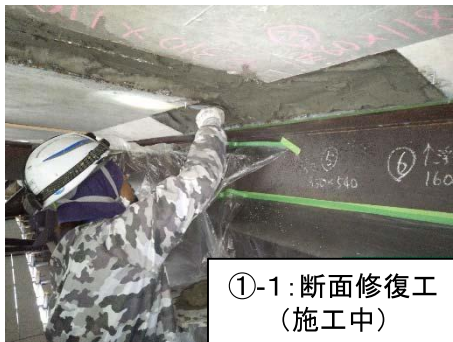
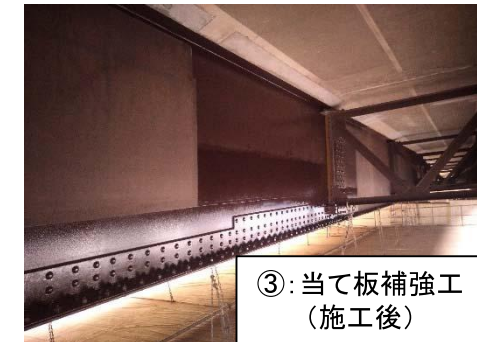
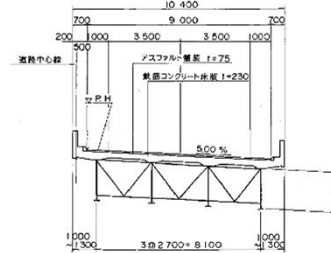
平成29年度 健全度Ⅲ判定



側面図



断面図



令和2年度 III判定

【概要】

橋長99m 建設年数：1971年 橋種：ランガー橋

【所見】

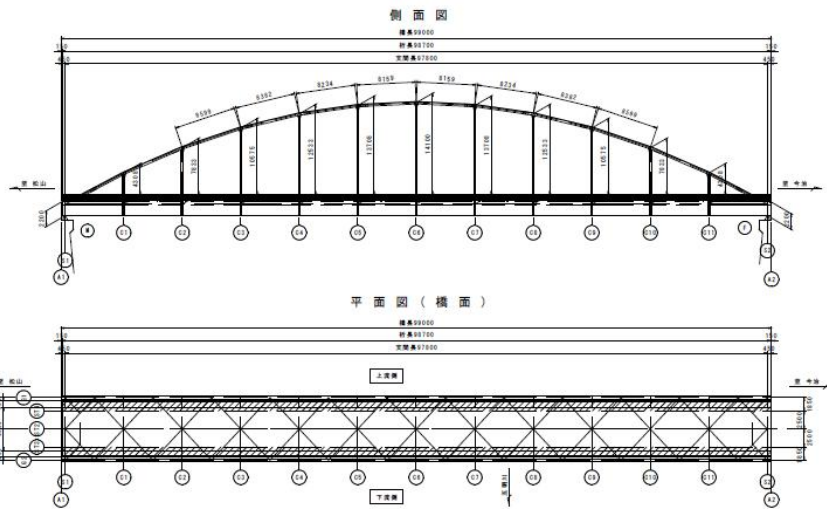
○防食機能の劣化が認められる。

【対策】

○塗替塗装工 (令和4年3月補修完了)



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を使用した。(承認番号 平26情使、第440号) この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平26情複、第523号)



全景



対策前



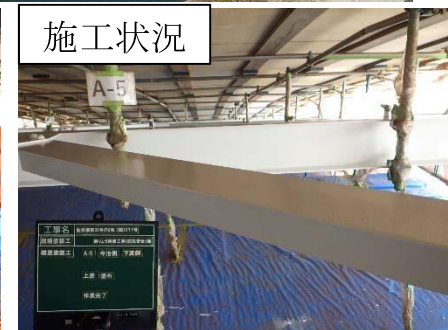
対策後



施工状況



施工状況

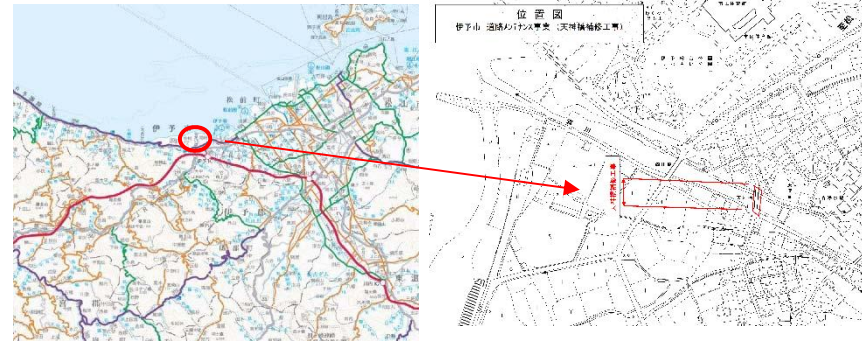


【概要】
 橋長21m 建設年数：昭和50年代 橋種：鋼橋

【所見】
 ○上部工の腐食、防食機能の劣化が認められる。

【対策】 令和3~4年度上部工補修
 ○支承取替・支承部鋼材取替・塗替塗装工
 断面修復工・ひび割れ注入工・表面含浸工

平成28年度 III判定



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を使用した。(承認番号 平26情使、第440号)この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平26情復、第523号)

